



そろいのお皿を作るのに、タタラ作りはとても便利です。ここでは型紙を使わない柔らかい形の丸皿角皿を制作します。

成形に苦勞する円柱角柱の作り方、縁の起こし方で変わる器の表情を紹介します。



よく練り横に置く。横のままたたいて形を作る※1。 円柱の角を出す。



大きさ確認。タタラ板を重ね2分する。2ブロック同時も可能。 布目をつける。



縁を厚くするため詰める※2。形を整える。 起こすのではなく詰めて直径を小さく。

- ※1 平均した堅さになるようによく練る。 縦にすると練目がヒビになりやすい。
- ※2 薄いタタラを使い縁だけ厚くすれば、底を削らなくてもかるく出来る。



練り土を横に使う。たたいて形作る。角をしっかり出す。以下布目まで丸皿と同じ。



フチの左右を詰める。丸皿のように周りを平均して詰めると、下の様に角が高くなる。



角が上がった形。 角を詰めて縁が平らな形。



左右同じ粘土量でフチの形により重量感が変わる。

フチをつぶして厚くする、角を丸める、半乾きで外を削る、中を削る、起こし方の角度。フチの形で異なる印象のお皿になります。

柔らかく縁作りにくい場合はタタラで切った粘土板を並べ、15分ぐらい乾燥させてから作る、あるいは成形後少しおいてから修正すると良いでしょう。